

## 『はたちの願い』

作文・詩の優秀作品を決定



最優秀賞の鈴木正洋さん

▽青少年の家  
TEL 76-3432

平成24年新成人を対象に募集した、「はたちの願い」の入賞者を決定しました。最優秀賞作品を下記に紹介します。(作品は、趣旨を損なわない範囲で要約しています)

なお、1月9日に開催した成人式で、入賞者を表彰しました。入賞者は次の皆さん。

(敬称略)

●最優秀賞 鈴木正洋(池浦町)

●優秀賞 湯浅葵(大東町)、高瀬友里(大東町)、畠山季子(大東町)、入鹿山朋美(大東町)

### 二十歳になつて

鈴木正洋

今年でとうとう二十歳になります。始めに、今まで僕を支えてくれた家族、友人、恩師、地域の皆さんに感謝したいです。特に母には、今まで多くの苦労と迷惑をかけてきたにも関わらず、ここまで育てていただき感謝の気持ちでいっぱいです。いつか、何らかの形で親孝行したいと思っています。そして皆さん、これからもよろしく願います。

思い返せば、今まで他人任せにすることが多かったように思います。勧められたこと、言われたことをこなす反面、苦しいこと、面倒くさいことを避け、目先の楽しみや楽なことと逃げてきました。しかし、大人になるということは、自分の望まぬこと、嫌なことにも取り組まなければなりません。今、一人暮らしをしています。全て自分でやらねばならず、家族との暮らしがいかに楽だったかと思ひ知らされます。既に働いて自立している同じ年齢の人と比べると、まだまだ未熟者で、恥ずかしさすら感じます。母に「忍耐力がない」と言われ、自分でもそう思うので、何事にも真面目に、後回しにせずに取り組む習慣をつけたいです。

無事に成人になることができず、うれしく思うと同時に、大人として、社会人としてふさわしい生き方ができるのかという不安もあります。二十歳になれば、飲酒・喫煙が許され、選挙権も与えられます。成人になるということは、ルールを守り社会的責任を自分で果たすこと、自分で管理できるようにすることだと思えます。しかしそれ以上に、一人の人間としてより良く生きられるかが重要であると思えます。大学生になり、知的障害者をお手伝いするボランティアを始めました。一緒に活動したり感謝されたりすると、充実感を得ることができます。社会のために役に立つということは、自分のためにもなると感じます。これからも、このボランティアを続けていくとともに、周りに流されず、自分の意思で行動していきたいと思えます。

夢は、学校の先生になることです。今、その夢に向かって大学で勉強をしています。しかし、ただ漠然と大学生生活を終わらせたくはありません。いろいろなものを見て、知って、体験して、経験を積んでいきたいです。何事にも積極的に取り組み、魅力的な先生になり、たくさんの方の役に立ち、豊かな人生を送ることができたらいいなと思います。